

ローターアクトの現況



第358地区ローターアクト委員長、東京府中 吉野亥之太郎

1974～75年度における当地区のローターアクトクラブ数は46クラブと一大飛躍をしました。

提唱RCは共同提唱が4クラブありますから合計50のロータリークラブです。未提唱のロータリークラブは30クラブですが、インターアクトクラブを提唱したRCが若干ありますので、インターアクト、ローターアクトのいずれも未提唱のロータリークラブは24クラブとなり、地区内80クラブ中1クラブ1アクトでゆくと56%のRCがアクトクラブを提唱したことになります。

そしてさらに未提唱クラブも、新年度でインターアクト、ローターアクトの提唱に意欲をもやしておりますので、1クラブ1アクトを当地区が成しとげる日もそんなに遠くはないでしょう。

第358地区が、どうして、これだけのローターアクトを保有するに至ったかは、いろいろ要因があると思いますが、(1)歴代ガバナーの青少年活動に対する熱意。(2)各RCの理事、役員年代が、ロータリーとしては若い層によって構成されているため、ローターアクトに歓迎される。(3)ローターアクト委員会委員を35歳～50歳までとし、青年会議所会員の経験者にした。(4)RIのローターアクト関係の文献を判りやすく冊

子にまとめ、各RCに配布した。(5)提唱、未提唱の担当委員全員を集めた研究会を過去6年間実施した。(6)地区大会、地区協議会の部門別会議には、必ずインターアクト、ローターアクトに関する討議をプログラムに組入れた。すなわち、インターアクトについては、過去12年間、ローターアクトは6年間の長い蓄積がある。

以上が今日、第358地区のローターアクトが発展した主なる要因と考えられます。すなわち、ロータリーの青少年奉仕活動実施に当っては、一時も手をぬくことは出来ないことになり、その活動は一貫したものであって、RCの担当委員がかわろうとも、地区ローターアクト委員が、そしてガバナーがかわろうとも、青少年奉仕活動はかわるべきでないことが条件となるのではないのでしょうか。

さて、地区内のローターアクトクラブはクラブ数から見て、ロータリーの1地区のクラブ数に匹敵するため、地区組織を構成させているローターアクトの地区運営は、彼等自身によって、行なわれているのです。その内容はロータリーに、よく調和し、むしろロータリアンとして見習うべきものがあります。このようにしてローターアクトは、第358地区で、今日の発展をとげているのです。